

令和7年度  
第2回大野市総合教育会議  
会議録

日 時：令和7年12月23日（火）午後2時00分～3時00分

場 所：結とぴあ 201・202号室

令和7年度 第2回大野市総合教育会議

日時：令和7年12月23日（火）

午後2時00分～

場所：結とぴあ 201・202号室

- 1 開会  
（大野市民憲章及び大野市教育理念の唱和）
  
- 2 市長あいさつ
  
- 3 議題  
（1）教育に関する大綱（案）について  
  
（2）その他
  
- 4 閉会

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 谷 由 美
5	教育委員	松 田 輝 治
6	教育委員	羽 生 た ま き

(事務局)

1	教育委員会事務局長	山 崎 勝 彦
2	教育総務課長	土 蔵 郁 代
3	学校教育審議監	山 川 龍 一
4	こども支援課長	岡 吉 男
5	生涯学習・文化財保護課長	佐 々 木 伸 治
6	教育総務課企画主査	富 士 根 麻 裕
7	行政経営部長	加 藤 嘉 一
8	政策推進課長	小 林 勝 信
9	政策推進課課長補佐	廣 作 力

(事務局以外の説明者)

1	スポーツ推進課長	砂 子 淳 一
---	----------	---------

2	地域文化課長補佐	清 水 宏 樹
---	----------	---------

〈傍聴者〉

なし

## 1 開会

―― < 市民憲章、教育理念唱和 > ――

## 2 市長あいさつ

本日は、令和7年度第2回大野市総合教育会議を開催したところ、教育委員のみなさまには公私ともに大変ご多忙の中、お集まりいただき誠に感謝を申し上げます。

さて、8月に開催した本会議において、今年度が最終年度に当たる教育に関する大綱のこれまでの取り組みを、皆様とご一緒に振り返って参った。今後の施策についても意見交換をさせていただいたところである。

今回は、令和8年度から12年度までを計画期間とする大綱案について、ご協議をお願いする。限られた時間となるが、これからの教育行政を推進するために、忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。

## 3 議題（進行：総合教育会議設置要綱第4条に基づき市長が務める）

### （1）教育に関する大綱（案）について

――事務局及び事務局以外の説明者より説明――

#### 【松谷委員】

8ページの「文化」のところで、COCONOアートプレイスにおけるアーティストの定期的なイベントに関しての文言だが、市民や観光客がアートに楽しく触れられる機会について、楽しくということは前提として、子ども、市民、市民以外の方を含め、継続的に興味を持って参加できる機会づくりを目指していただきたいと感じた。

次に、4ページの「学びの場所」について、国際化や情報化に対応できる人づくりということで、18年をつなぐ教育を踏まえて、国際化に対応できる子どもたちの知識の広がりにつながる具体的な施策を講じていただきたい。

現在、ALTの配属が良い形で行われているため、そこから子どもたちへどのように関わることで国際化・情報化につながるのか、具体的な展開を示していただけるといいと思った。

最後に、「スポーツ」に関して申し上げます。中学校の部活動の地域移行が進

む中で、部活動やスポーツ少年団の活動場所に関する不安の声が聞こえている。例えば、上庄中学校を使用していたバレーボールチームなどが、迷うことなく次の練習場所へ移行できるよう、適切な斡旋やバックアップをお願いしたい。

#### 【羽生委員】

「子育て」に現行の大綱には明記されていなかった「若者支援」と「情報発信」が新たに加わったことは、非常に大きな意義があると感じている。これらの取組がうまく機能すれば、結婚控えの解消、あるいは出産・子育てへの支援、ひいては人口減少対策にもつながると考えている。

今年度、若者交流促進協議会（結リンク）が発足し、第1回協議会がキックオフとして位置づけられた。令和8年度にはさまざまな事業が展開される予定ということで、ホームページなどで活動の様子を見ると、若者が自主的に行っている。基本理念も「こどもイキイキ 若者ワクワク 子育てキラリ 結のまち」と非常にシンプルでわかりやすく、その団体らしさを感じられた。

また、新聞では、30代女性が来年1月から「婚活スクール」を企画して立ち上げるといった記事があった。こういう場の促進・交流のその先に課題があるということで、いろいろな仕掛けをすることもできると書かれていたので、来年度の企画の中で、そういったスクールとコラボして広く周知していただくと、活動の幅がさらに広がるのではないかと期待している。

いずれにしても、この協議会の理念が行政主導ではなく若者主体である点が大きな特徴であり、同世代の視点だからこそ共感や行動につながる部分が大いと感じている。行政には、できる限りのバックアップと、「この協議会でこんなことをやっていますよ」ということを広報紙などさまざまなツールを活用して、周知・情報発信を行っていただき、さらに市民や企業のサポートへと広げていけるような取組をお願いしたい。

それから、1つ質問だが、「文化」の項目について、これまでは「文化芸術」と記載されていたが、今回「芸術」という言葉がなくなっている点について確認したい。これは、文化という大きな概念の中に芸術が包含されるという理解でよいのか。一般の方が資料を見た際、「文化」と記されているだけだと、絵画や音楽といった芸術分野を含むというニュアンスが十分に伝わらないのではないかと感じている。その点について、意図を伺いたい。

#### 【馬道委員】

昨年の今頃、市長から本施策についてお話を伺い、その中で3つの言葉を勉強させていただいた。「ウェルビーイング」「ジェンダーギャップ」「シェアリングエコノミー」といった考え方を初めて学んだ。中でも「ウェルビーイング」

という言葉が、今回の「学び」の中に位置づけられていることは大変意義深いと感じている。この言葉は現在、各学校に浸透しつつあり、多くの学校の教育計画に使用され、学校訪問時の校長説明の中でも言及されるなど、着実に共有が進んでいる。学びの視点として示されているウェルビーイングの考え方についても、同様に非常に重要であり、こうした考え方が教育大綱の「教育」分野の中に盛り込まれている点を評価したい。

あわせて、「結協議会」という言葉が本計画に明記されていることについて、前回会議で指摘した周知不足の点を踏まえた対応として、大変ありがたく感じている。この言葉が明確に位置づけられることで、ウェルビーイングと同様に、各学校の教育計画にも反映され、取組がさらに広がっていくことを期待している。

さらに、「スポーツ」分野において、指導者の確保・育成に力を入れている点について評価したい。先日、第一線で活躍されている大藤沙月さんが有終南小学校に来られて、講演会や子どもたちとの給食交流が行われたことが報道されていたが、こうした具体的な関わりを通して、子どもたちが将来の目標や夢を描くきっかけになる有意義な取組であったと感じている。

今後は、指導者の育成・確保に加え、現在活躍しているトップレベルの人材に直接触れる機会を創出し、プロの技術のみならず人生観なども含めて子どもたちに伝えていけるような支援を行っていただきたい。

#### 【松田委員】

まず、子どもたちの放課後の居場所づくりについてだが、本大綱にも示されているが、近年は子どもの人数が減少し、地域の中で子ども同士や大人との触れ合いが難しくなっている。放課後に家庭以外で子どもが安心して過ごせる身近な居場所は、現在ほとんどない状況であると感じている。

市では、子どもの居場所づくりということで、放課後児童クラブや放課後子ども教室の取組が進められているが、各学校の余裕教室や施設の余裕部分を活用し、公民館だけでなく学校内でも放課後子ども教室を開設していただいている点は評価したい。

一方で、今後、阪谷小学校や小山小学校が統合されるが、統合後は統合された学校の中での放課後子ども教室や放課後児童クラブに参加することになる。大人数での活動は社会性を育む面で有効である反面、将来的に阪谷や小山という地域での活動が難しくなり、子どもと地域との関わりが薄れてしまうのではないかという懸念もある。この点については、バランスの取り方が難しい課題であると感じている。

子どもの社会性を養うために、例えば、少人数単位での居場所づくりを行い

ながら、帰宅後には、今後地域交流センターへ移行していく公民館などにおいても、子どもたちが地域活動に参加できるような仕組みづくりができないかと考えている。具体的な方法については今後の検討が必要であるが、地域と子どもをつなぐ工夫は重要である。特に、人口減少が進む中であって、子どもたちが自分の地元に残り、地域の中で何ができるかを考えることは、地域活性化や人口減少対策の観点からも大切である。子どもたちが成長する過程で大野に愛着を持てるよう、私たち大人が支援できる居場所や仕組みづくりを進めていきたい。

先ほど馬道委員からも発言があったが、「スポーツ」分野において「優秀なアスリートの育成」や「指導者の育成」という言葉が出てきたが、大藤選手や奥村選手の活躍が新聞等で紹介されると、市民にとっても身近な存在として大変励みになると感じている。

特に、和泉小学校を訪問した際、国内で活躍している奥村選手がこの和泉小学校に通っていたということで、子どもたちにとって「日本の中で頑張っている選手」が非常に身近な存在となり、「自分たちも頑張れば何かできるのではないか」と感じる良い機会になっていたことが印象に残っている。

また、新聞で報道されていた村松選手の全国大会優勝の話題についても、同じ学校で学んでいた身近な先輩が日本一になったという事実は、子どもたちにとって夢を現実として感じられる大きな励みになるものだと思う。優秀なアスリートの育成には個人の資質もあるが、地域全体で大切に支え育てていくことが、子どもたちの夢を身近なものにするスポーツ振興につながると考えている。

さらに、富田小学校では伊藤選手が来校し、児童と直接触れ合う機会があったと聞いている。パラリンピックで活躍した選手から直接話を聞き、交流することは、子どもたちにとって大きな感動と刺激となり、夢や目標を身近に感じる貴重な経験である。このような取組が、市全体で継続して行われることを期待したい。

あわせて、指導者については、育成そのものに加えて、子どもたちの指導に携わりやすい環境づくりが重要であると考えている。そのためには、活動しやすい体制や環境整備が不可欠であり、最終的には一定の金銭的支援を含めたバックアップも検討する必要があるのではないかと考えている。本大綱の文面では金銭的支援に関する記載はないが、指導者やアスリートが安心して活動できるような支援の在り方についても、今後検討していただければありがたい。

それから、文化財の活用についてだが、地域の資源については、各地域や集落において、「自分たちの地域にはこうした文化財がある」という意識の下、熱心に取り組まれている様子は感じられる。しかし、市全体の取組として捉えた場合、それらが十分に結びつき、市民全体にわかりやすく伝わっているかと

いう点では、やや弱い部分があるのではないかと感じている。個々の地域での努力は見えるものの、市全体として文化財をどう活用していくのかという姿が、市民の目に見える形になりきれしていない印象がある。

そのため、本大綱の中で、文化財の活用について、より具体的かつ体系的に整理し、市民全体がその価値や取組を実感できるような形で、さらに推進していただければと思っている。

**【市長】**

本日、委員の皆さまからは多くの期待を込めたご意見をいただき、大変ありがたく受け止めている。ご評価いただいた点については、関係者一同、今後の取組にしっかりと生かしていきたい。

また、本日いただいたご質問やご意見の中で、現時点で回答できるものについては、各担当課から回答していただければと思う。該当する課があれば、よろしくをお願いしたい。

**【行政経営部長】**

委員からご質問のあった「芸術」という表現について説明する。これまで使用してきた「文化芸術」という言葉についてであるが、芸術は文化の概念の中に包含されるものと捉えており、今回の総合計画の策定に当たっては、「文化」という項目の中で包括的に整理させていただいている。

そのため、表現としては「文化」としているが、従前から取り組んできた芸術分野の施策が後退したものではなく、絵画や音楽、舞台芸術などを含む文化芸術活動については、引き続き重要な要素として位置づけている。

また、計画の検討過程においては、市民アンケート等の調査結果も踏まえながら整理を行っており、文化芸術に関する取組についても、今後の施策の中で継続的に推進していく考えである。

**【教育委員会事務局長】**

放課後の居場所について回答する。小山小学校および阪谷小学校は統合により閉校となるが、放課後子ども教室については、引き続き実施していく考えである。具体的には、小山地区については地区に戻って児童を預かる形で継続し、阪谷地区についても、これまでの預かりのスタイルをそのまま引き継ぐ予定としている。

当面はこの運営体制により様子を見ていくこととし、その中で、活動の内容については、地域の行事や伝統文化などに触れられるような取組を取り入れ、子どもたちが地域とのつながりを感じられる活動につながるというと考えている。

**【生涯学習・文化財保護課長】**

文化財の活用については、現在、文化財保存活用地域計画の見直しを進めて

いるが、地域の中にどのような文化財資源があるのか、まだ十分に見えにくい状況にあると認識している。そのため、今後、調査を実施した際には、調査結果をできるだけ地元の方々に還元していきたいと考えている。

また、情報発信が可能なものについては積極的に発信を行い、まだ十分に認知されていないが、地域には素晴らしい文化財が数多くあるということを、市民に広く伝えていきたいと考えている。

#### 【スポーツ推進課長】

中学校の地域クラブ活動に係る活動場所については、来年度から旧上庄中学校の施設が使用できなくなることに伴い、これまで定期的に利用してきた団体については、代替となる施設の確保に向けて間に入り、利用可能な施設の情報提供や調整を行っている。引き続き、各団体ができる限り支障なく活動を継続できるよう、関係施設との調整を進めていきたいと考えている。

それから、本市出身のアスリートとの交流ということで、子どもたちにとって、身近な地域から輩出された優れた選手が実在し、直接触れ合う機会を持つことは、大変意義のあることだと考えている。そのため、可能な限り、子どもたちとアスリートとの交流の機会を提供していきたいと考えている。

しかしながら、現役で活躍している選手については、競技活動等により多忙で、時間を確保することが難しい状況もある。そのため、帰省等で本市を訪れた際に、日程が合えば学校訪問や交流の場を設けるなど、可能な範囲で機会を作っているのが現状である。毎年必ず実施できるかは不透明な部分もあるが、今後も機会があれば、引き続き子どもたちとの交流の場を提供していきたいと考えている。

次に、指導者の環境づくりに関する金銭的支援についてである。現在、本市では、指導者が各種資格を取得する際の支援を行っており、指導者の育成や指導体制の充実に努めている。

#### 【こども支援課長】

結婚支援について説明する。先程、委員から「交流のその先に」という言葉があったが、まず令和8年度については、若者を対象とした企画による交流促進事業を実施していく考えである。

あわせて、「結婚とはどういうものか」といった考え方や、結婚に向けた意識づくりを支援する分野の方がいらっしゃるという情報も把握している。今後は、交流の機会を広げていくことに加え、そうした取組についても視野に入れながら、段階的に結婚支援施策を展開していきたいと考えている。

#### 【市長】

これまでのご意見のうち、意見発表以外のご質問的な部分については、各担当課から一定の回答をいただけたのではないかと思います。ついては、この後、教

育長から補足や総括の発言があればお願いしたい。

【教育長】

それでは、一言申し上げます。まず、第1回の総合教育会議において出された意見をしっかりと反映した案となっていることに対し、大変ありがたく感じている。また、本日の会議におけるやり取りを通して、更なる広がりや深まりが生まれたのではないかと受け止めており、感謝を申し上げたい。

私は常々、教育の分野から少しでもまちづくりに貢献できればと申し上げている。第六次総合計画の将来像に掲げられている「人がつながり地域がつながる住みたい結のまち」という考え方は、まさに教育の役割とも重なるものであり、「つながり」という視点が重要であると改めて感じている。

教育長室からは越前大野城が見えるので、天守から盆地全体を眺めるようなイメージで執務に当たることが多い。山々やそこに広がる集落、まちなみ、そして子どもから高齢者まで、さまざまな人々が暮らす姿が見えてくる。そこに「住み続ける」という時間軸を重ねることで、非常に壮大な地域コミュニティの姿が浮かび上がってくるように感じている。

子育て、学び、生涯学習を一体的に担う教育委員会として、現在、「18年をつなぐ教育」に取り組んでいるが、これは地域コミュニティをつなぐという視点に立った取組の1つであると捉えている。

具体的な事例を1つ紹介したい。11月には、かねてから進めてきた学校種を超えた子どもたちのつながりが実現した。奥越明成高校の電気科の生徒が有終東小学校6年生の理科の授業に講師として参加し、あわせて当該6年生が事前に奥越明成高校を訪問して電気科の授業を参観する取組が行われた。また、大野高校2年生が、市内小学校7校の5・6年生を対象に英語の授業を行うといった取組も実現している。

さらに、12月には、市内の商業施設においてクラシックライブが開催された。教育委員である松谷委員、羽生委員にも参加いただき、大変ありがたく感じているが、その場に大人の演奏者に交じり、開成中・陽明中の両中学生で構成する「大野ジュニア吹奏楽団」の出演も実現した。このステージを目にし、18年の学びを超えて、多世代の市民が1つになり、共に作り上げる姿こそが、大野市の目指す理想の姿ではないかと強く感じたところである。

「18年をつなぐ教育」は、幼・保・小・中・高の連続性を意識した取組であるが、そこからさらに広がりや深まりが生まれ、大野だからこそ可能な展開が見えてきていると感じている。

今後、このような可能性が、スポーツをはじめとするさまざまな活動分野に広がっていくよう、人と人をつなぎ、地域と地域をつなぎ、「住みたい結のまち」の実現に向けて、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

## 【市長】

私も、8月の会議における意見交換で出された内容が、今回の案の中に随所にちりばめられていると感じている。総合計画後期基本計画は、市民の代表の方々と市の職員が、膝を突き合わせながら丁寧に議論を重ねて作り上げてきたものであり、その努力がいよいよ終盤を迎えていることに、関係していただいた全ての方々に心から感謝を申し上げたい。

今回は基本的な方針を示す段階であるため、私からは、少し気になったというか期待している点について、キーワードという形でみなさまと共有したい。

私の中での一貫したテーマは、「人口減少社会に対応できる大野市の未来をどう創っていくか」という点であり、そのメッセージを発信し続けることが、市長としての大きな使命だと考えている。担い手が不足していく社会の中で、私たちが大野で暮らし続ける社会を、どのように形づくっていくのかが重要である。

そうした観点から、「学び」の分野に掲げられている「子どもの自己実現と未来を創造する力を育む」教育については、大いに期待している。また、「自己肯定感を高め、困難に負けない心の育成につながる学び」という視点についても、これからの社会において、極めて重要な要素であると考えているので、そうしたことを大切にされた教育行政が展開されていくことに対し、私としても強い思いを持っている。

それから、市長部局の取組として、今後特に重要だと考えているのが、資料6ページの「地域」の分野に記載されている「市民協働による住民自治の促進」についてである。

昨年の8月から住民自治の在り方検討を進めてきており、令和7年2月には、住民自治を担うリーダーの皆さんに参加いただいた「市民協働による住民自治検討委員会」を設置し、検討を重ねてきた。その結果、本年8月に報告書として取りまとめられている。今後は、その内容を各地区に入りながら周知し、それぞれの地域に即した住民自治の在り方について、さらに検討を進めていく段階に入っていく。

この取組は、今後の市政運営において非常に重要なものになると考えている。

私自身、地域福祉に携わっている方々や、農業など地域の担い手の方々、さらには若い世代の皆さんとお話をする機会があるが、いずれの分野においても、人材が限られていく中で、現在の仕組みをどのように見直し、より良い社会づくりにつなげていくかという点に、共通した問題意識を持っておられることを強く感じている。そうした中で、「市民協働による住民自治の促進」は、これからの大野市にとって極めて重要な取組であると考えており、この点については、特に強調しておきたい。

その具体的な方法論の1つとして、資料7ページに示されている「スキル習得型の講座」について、社会教育の中で改めて見直していくことは、大変重要であると考えている。また、「働きがいのある職場環境づくり」についても、人材が不足していく社会の中において、人が働きに来たいと思える職場、そして、そこにいる人がやりがいを持って働き続けられる職場を作っていくことが、今後の企業や組織に求められる重要な視点である。市役所においても、そうした考え方を大切にしながら、職員1人1人が意欲を持って働ける職場環境づくりに取り組んでいきたいと考えている。

いずれにしても、本日は、最終案に近い段階の内容をみなさまと共有できたことを、大変ありがたく感じている。委員のみなさまをはじめ、これまで検討に携わっていただいた事務局のみなさんとも意見交換ができたことに、改めて感謝を申し上げたい。

## (2) その他

――事務局より大綱作成スケジュールについて説明――

――教育委員 意見なし――

## 4 閉会